

城端線・氷見線沿線地域公共交通網形成計画 素案【概要版】 地域公共交通の現況と課題

1. 地域公共交通網形成計画について

【国の方針】（平成 26 年 11 月 地域公共交通活性化再生法が改正）

○地域公共交通の維持・改善は、交通分野の課題解決にとどまらず、まちづくり、観光、健康、福祉、教育、環境等の様々な分野で大きな効果をもたらす。地域の総合行政を担う地方公共団体が中心となり、地域戦略の一環として取り組む必要がある。

⇒これまでの地域公共交通総合連携計画に代わり、地域公共交通ネットワークとまちづくりを一体的に形作る**地域公共交通網形成計画**が新たに法定計画として位置付けられる。

○これを受けて、城端線・氷見線沿線地域においても、人口減少社会が進展する中で、地域公共交通の維持・改善は将来のまちづくりを進める上で不可欠な要素であること、北陸新幹線の開業効果を、多様な公共交通網を連携させることで沿線地域へ最大限に波及させる必要があること等の理由から、⇒沿線地域が自立した都市・生活機能を包括する広域的な地域として持続していくよう、新たに地域公共交通網形成計画を策定。

【既存計画】 ■城端・氷見線地域公共交通総合連携計画（平成 24 年度～平成 28 年度の 5 年間）

案 【新たな計画】 ■城端線・氷見線沿線地域公共交通網形成計画（平成 29 年度～平成 33 年度の 5 年間）

2. 城端線・氷見線沿線を取り巻く現状

（１）沿線地域の人口

○4市の合計人口は昭和 60 年の 360,690 人をピークに**減少傾向**。

○城端線・氷見線の**駅周辺**及び自動車の利便性が高い郊外の**幹線道路沿い**に**人口が集積**。

○沿線駅周辺の中心市街地や各市の外縁部・山間部で**高齢化率**が高い。

（２）沿線の施設立地状況

【観光地、観光施設】

○各市の歴史や文化に根付いた観光地、観光施設が数多く立地している。

○世界遺産の五箇山合掌造り集落など、**鉄道駅から離れている集客力の高い観光地、観光施設**も存在する。

【都市施設】

○4市の**高等学校(17校)の内 11校**は城端線・氷見線各駅から半径 2km 以内に立地している。

○4市の**医療施設、大規模小売施設**は、城端線・氷見線各駅周辺だけでなく、自動車での利便性が高い幹線道路沿いなど郊外にも数多く立地している。

○各市の**中心市街地**は城端線・氷見線沿線駅を中心に形成されており、官公庁、図書館、体育館などの**公共施設**は駅周辺に一定程度集積している。

（３）城端線・氷見線沿線の公共交通網

○鉄軌道では、高岡駅から、**東西方面にあいの風とやま鉄道、北方面へ万葉線**が運行している。

○4市の民間バス路線は、高岡駅、砺波駅などの拠点駅から**放射状**に延び、複数の市に渡って運行している。

○市営バスは、鉄軌道や民間バス路線が行き届かない地域や山間部等へ、多様な路線が運行している。

○高岡から城端、五箇山と白川郷を結ぶ「世界遺産バス」や、高岡と氷見、和倉温泉を結ぶ「わくライナー」などの**観光路線バス**も運行されている。

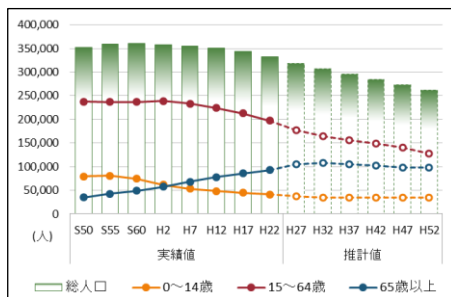


図 4市の人口推移
出典：【実績値】国勢調査 【推計値】国立社会保障・人口問題研究所



図 主な観光地、観光施設の分布

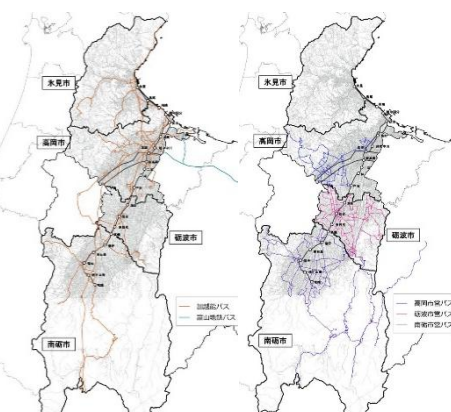


図 民間バスネットワーク 図 公営バスネットワーク

（４）城端線・氷見線の現状

○平成 27 年 3 月に**北陸新幹線、城端線の新高岡駅**が開業。

○北陸新幹線、城端線新高岡駅の開業と同時に、城端線で**試行的な増便運行**を実施（1 日 4 往復、全 8 便。平成 29 年春まで実施予定）

○城端線・氷見線の乗車人員は、長期的には減少傾向にあったが、平成 21 年から平成 25 年度までは**増加**に転じた。この間は、定期外利用者が減少する一方で、**通勤・通学による定期利用者が増加**し、全体として利用者が増加する結果となった。

○平成 27 年 10 月より城端線・氷見線において**観光列車「ベル・モンターニュ・エ・メール号」**（愛称：べるもんた）が運行されている。運行本数は 1 日 2 往復であり、土日に運行している。

○平成 29 年 4 月に、城端線新高岡駅に**交通 IC カード「ICOCA（イコカ）」が導入**される予定。新高岡駅からあいの風とやま鉄道各駅間で相互利用が可能となる。

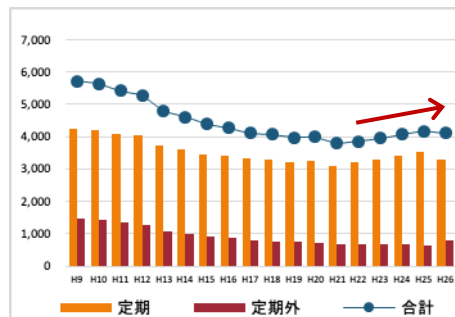


図 城端線の1日あたり乗車人員

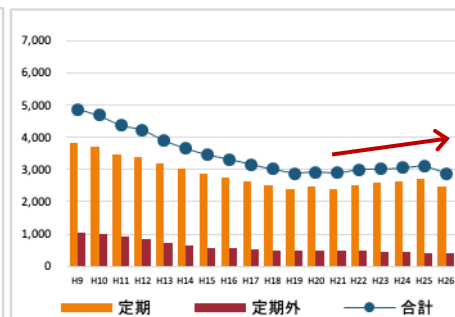


図 氷見線の1日あたり乗車人員



図 観光列車「ベル・モンターニュ・エ・メール号」

（５）沿線住民のニーズ

○城端線・氷見線とも「**鉄道・バス等との乗継ぎ**」「**運行本数**」「**駅施設の快適さ**」に対する満足度が低い。

○特に、氷見線利用者の「**鉄道・バス等との乗継**」に関する満足度が低い傾向がみられる。

○北陸新幹線と城端線新高岡駅が開業し、地域交通や観光利用での公共交通の需要が変化している中、城端線新高岡駅での「**北陸新幹線との乗継ぎ**」に関する満足度が低い。

○「**駅の自転車駐輪場**」については、両線とも一定の満足度がある。

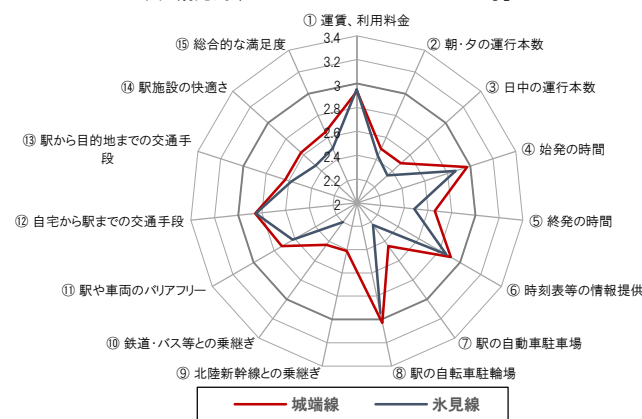


図 城端線・氷見線の満足度 アンケート結果
(満足度を5段階評価)

3. 城端線・氷見線沿線地域の公共交通の課題

【城端線・氷見線の課題】

- ① 沿線人口の減少及び少子高齢化
利用者の主体である通勤・通学の定期利用者数の維持、定期外利用者の増加に向けた取り組みが必要
- ② 城端線・氷見線間のアクセス改善
- ③ 車両、レールの老朽化
- ④ 北陸新幹線との乗継ぎの改善

【公共交通網の課題】

- ① 鉄道、バス、路面電車等の乗継ぎの改善
- ② バスの運行ルート、ダイヤと利用者ニーズの不一致
- ③ 広域バスネットワークの活性化
- ④ 観光目線での公共交通網の整備

【駅施設、駅周辺の課題】

- ① 駅への交通手段の確保
- ② 駅舎のバリアフリー化など利用環境の改善
- ③ 駅周辺の駐車場ニーズに対する対策
- ④ 運行状況、乗換え案内等の情報提供の充実
- ⑤ 観光客の利用を考慮した駅施設整備

【利用者増加への課題】

- ① 公共交通を利用する機会、動機が少ない
- ② 通勤・通学など日常利用者にとっての利便性向上
- ③ 利用目的となる駅周辺や沿線観光地の魅力向上
- ④ 利用者マナー向上、駅美化、沿線の景観づくりなど、愛着の造成

地域に利用される交通ネットワークの形成 ～城端線・氷見線沿線地域の自立的な発展を目指して～

基本方針1【生活利用の視点から】 日常生活の足として利用される 利便性の高い公共交通の実現

JR 城端線・氷見線を始めとする沿線地域の公共交通は、通学・通勤利用者を中心に、従来から沿線住民の日常生活の足として多くの方に利用されている。日常生活における移動手段として、地域生活者にとって利便性の高い、満足度の高い公共交通網の形成を目指す。

基本方針2【広域交流の視点から】 沿線地域の発展に繋がる 交通ネットワーク網の形成

平成 27 年に北陸新幹線が開業し、首都圏と沿線地域が新たに新幹線新高岡駅によって結ばれ、沿線地域の公共交通は、新たに広域交流の裾野を広げるツールとしての役割を担っている。ビジネス目的や観光目的など、多くの方に、分かりやすく利用しやすい交通ネットワーク網の形成を目指す。

基本方針3【将来のまちづくりを見据えて】 人口減少社会を見据えた、 公共交通を中心としたライフスタイルの定着

少子高齢化、人口減少が進む中、都市機能の配置や再開発など、まちづくりを進める上で公共交通との連携は欠かせない視点である。都市と居住エリア、沿線地域間を結ぶ移動しやすい公共交通ネットワークを確立することで、自動車依存からの脱却を図り、公共交通を中心としたライフスタイルの定着を目指す。

城端線・氷見線運行関連

- ◆利用向上につながる車両の検討
- ◆新幹線開業後の運行本数増便の検討
- ◆交通 IC カード利用拡大に向けた課題整理
- ◆城端・氷見線の直通化に向けた検討

モビリティマネジメント

- ◆モビリティマネジメントの PR
- ◆公共交通案内の作成、PR（紙ベース、ホームページ等）
- ◆公共交通利用者へのインセンティブ

公共交通網の形成

- ◆あいの風とやま鉄道、万葉線との接続性の向上
- ◆新幹線との接続性の向上
- ◆観光列車等とのタイアップ
- ◆利用者ニーズに合わせたバスの運行ルート、ダイヤの検討
- ◆広域バスネットワークとの連携強化
- ◆観光路線バスの運行

あいの風とやま鉄道、万葉線との 接続性の向上

新幹線との接続性の向上

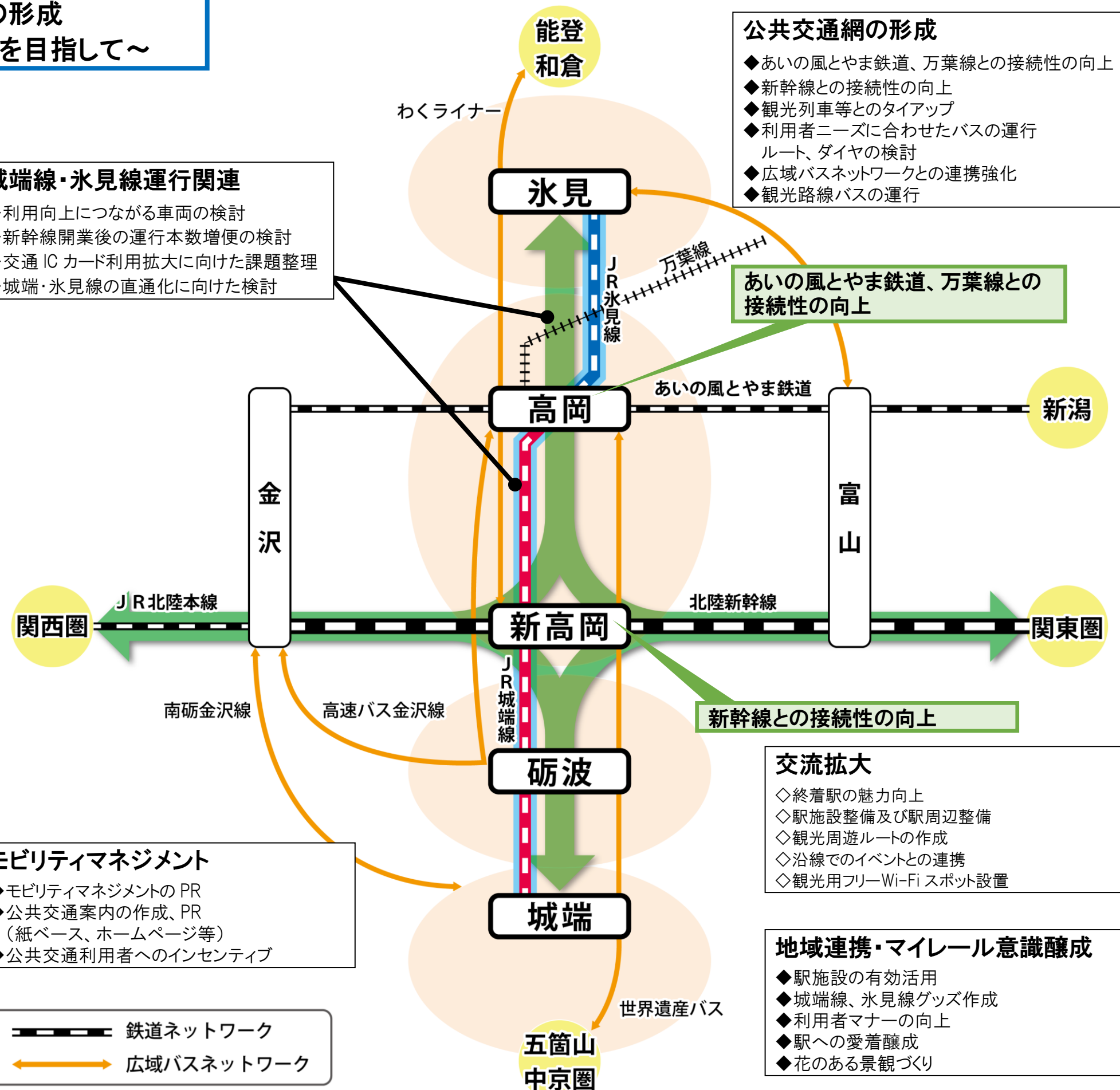
交流拡大

- ◇終着駅の魅力向上
- ◇駅施設整備及び駅周辺整備
- ◇観光周遊ルートの作成
- ◇沿線でのイベントとの連携
- ◇観光用フリー Wi-Fi スポット設置

地域連携・マイルール意識醸成

- ◆駅施設の有効活用
- ◆城端線、氷見線グッズ作成
- ◆利用者マナーの向上
- ◆駅への愛着醸成
- ◆花のある景観づくり

—— 鉄道ネットワーク
—— 広域バスネットワーク



城端線・氷見線沿線地域公共交通網形成計画 素案【概要版】 取組み(案)

No	柱	形成計画での取組み(案)	【連携計画での位置付け】	取組み内容	基本方針との関連 (●:強く関連 ○:関連)		
					生活利用	広域交流	将来のまちづくり
1	城端線・氷見線 運行関連	利用向上につながる車両の検討	【車両の内装のリニューアルの検討】	・ラッピング列車を活用したイメージアップ ・車内環境の快適性向上の検討	○	●	○
2		新幹線開業後の運行本数増便の検討	【車両導入も考慮した運行本数増便の検討】	・増便の継続実施と効果検証 ・運行本数増便の検討	●	○	●
3		交通ICカード利用拡大に向けた課題整理	【交通 IC カードの導入検討】	・交通 IC カードシステム利用可能エリア拡大検討調査	●	●	○
4		城端・氷見線の直通化に向けた検討	【城端線・氷見線の直通化の課題整理】	・課題整理の結果を踏まえた課題の解決調整、直通化に向けた検討調査 (直通化概算整備費の検証、ダイヤシミュレーション、運行経費等)	●	●	●
5	交通機関 鉄軌道 バス	あいの風とやま鉄道、万葉線との接続性の向上 【地域交通】	【輸送サービス向上】	・あいの風とやま鉄道及び万葉線との接続を考慮したダイヤの検討	●	○	●
6		北陸新幹線との接続性の向上 【広域交通】	新規	・新幹線との接続を考慮した城端線ダイヤの検討	○	●	●
7		観光列車等とのタイアップ 【観光交通】	新規 【観光資源の活用】	・ベル・モンターニュ・エ・メール号での乗客サービスの提供 ・観光客おもてなし企画の検討 ・あいの風とやま鉄道観光列車(H30 予定)とのタイアップ企画の検討 ・関連グッズの検討		●	○
8		利用者ニーズに合わせたバスの運行ルート、ダイヤの検討 【地域生活路線】	【バスとの乗換え円滑化】	・運行ルートやダイヤの検討 ・沿線のまちづくりや都市機能の集積と連動したバス路線網の検討	●		●
9		広域バスネットワークとの連携強化 【広域生活路線】	新規	・複数の自治体や県域をまたぐ広域生活路線バスネットワークとの連携強化	●	○	●
10		観光路線バスの運行 【観光路線】	新規	・既存観光路線バスの利用促進 ・主要駅発着の観光路線の検討		●	○
11	交流拡大	終着駅の魅力向上	新規	・氷見駅、城端駅について、終着駅としての拠点性向上、目的地としての魅力向上等の方策検討		●	●
12		駅施設整備及び駅周辺整備	【駅施設整備及び駅周辺整備】	・駅施設、付属施設、駅前広場、アクセス経路の整備	●		●
13		観光周遊ルートの作成	新規	・公共交通利用を前提とした観光モデルプランの作成		●	○
14		沿線でのイベントとの連携	【沿線各自治体とのイベントの連携】 【万葉線との連携】	・城端線・氷見線を利用したイベントの開催促進、支援 ・アニメ等地元資源を活用したイベントの共催、開催支援 ・万葉線との連携イベントの共催		●	○
15		観光用フリーWi-Fi スポット設置	新規	・Wi-Fi 設備の設置		●	○
16	モビリティマネジメント	モビリティマネジメントの PR	新規	・自動車通勤者に対する情報提供やアンケートの実施・公共交通のお試し利用の実施・自動車運転免許返納者への公共交通利用割引の適用等サービスの導入検討	●		○
17		公共交通案内の作成、PR (紙ベース、ホームページ等)	【乗換案内の充実】	・バスと連携した時刻表の作成 ・沿線公共交通マップの作成 ・駅施設のバリアフリー対応に関する情報提供 ・バス時刻表、乗換え案内のインターネット検索システムへの反映	●	●	○
18		公共交通利用者へのインセンティブ	新規 【城端線・氷見線の利用補助制度】	・異なる交通機関利用時に併用できる共通乗車券、定期券の導入検討 ・児童、生徒らの体験学習時の利用支援 ・公共交通利用促進運動等実施事業所への補助方策検討 ・児童、生徒向けのホリデーパス、1 日乗車券等	●		○
19	地域連携 マイルール意識醸成	駅施設の有効活用	【駅施設整備及び駅周辺整備】	・まちづくり拠点としての駅舎整備検討	●		○
20		城端線、氷見線グッズ作成	新規 【観光資源の活用】	・オリジナルグッズの作成等による親しみやすさの向上 ・グッズ販売による収益改善	●	○	
21		利用者マナーの向上	新規	・利用者マナー向上の車内アナウンス、広告等 ・学校を通じた利用者マナー向上啓発	●		○
22		駅への愛着醸成	【地元ボランティアによる環境美化】	・地元ボランティアによる環境美化活動 ・各駅に動物駅長を設置し、地元住民の愛着の形成、駅周辺に集まる機会の創出 ・一日駅長の決定イベント、コンテストの実施	●		○
23		花のある景観づくり	新規	・城端・氷見線の各駅への花植の実施 ・車窓から花の眺めが楽しめる景観づくり	●	○	